

イサク ③

□イサクの信仰の手本

1. 土地の約束と子の約束は、アブラハムに復活を確信させることになった。アブラハムは、約束の子イサクを捧げることを通して、復活信仰を表明した。このとき、イサクは30歳代の壮健な青年であったが、父アブラハムに逆らわず、従い通した。
2. 父アブラハムと同様、寄留者の立場を甘んじて受けて、忍耐し続けた。
3. イサクは、双子の息子エサウとヤコブをもうけた。出産のときに神はアブラハム契約の継承者は弟のヤコブになるという預言を与えていたが、イサクは兄のエサウの方を愛し、エサウを選ぼうとした。しかし、妻リベカと子ヤコブによる偽計事件を受けて、神のみこころに逆らっていた自分の罪に気づき、自ら進んで、確信をもって、未来のことについてヤコブとエサウを祝福した。

□本日の内容 今回と次回の2回に分けて、イサクの信仰の手本の三つ目を学びましょう。

(1) エサウとヤコブの誕生 (創 25 : 19~26)

- ① イサク 40歳のとき、リベカと結婚。結婚から20年近くになっても、子どもができない。イサクは妻のために主に祈った。主は、その祈りに答えてくださり、リベカはみごもった。
- ② 胎内で複数の胎児がぶつかり合う。リベカは、「いったい、どうなるのでしょうか、私は」と言った。彼女は母体の命に危険を感じた。リベカも主に祈った。主は、祈りに対して、二つのことを答えてくださった。
 - 二人の男子が生まれて、「二つの国」、「二つの国民」になる。確かに、後年、エサウからはエドム民族、ヤコブからはイスラエル民族が出た。
 - 「一つの国民は他の国民より強く、兄は弟に仕える」。イスラエルはエドムよりも強くなる。エドムはイスラエルの支配下に服する、という預言。
- ③ 主が言われたとおりに、二人の男子、双子の赤ちゃんが誕生した。イサク 60歳。
 - 兄の名は、エサウ。「毛深い」という意味。赤毛の毛深い赤ちゃんだったから。後年エサウから出た民族の名が、エドム「赤い」となったのは、エサウの毛の色と関連がある。
 - 弟の名は、ヤコブ。「アケブ（かかと）をつかむ者」という意味。生まれてくるときに、エサウのかかどをつかんでいたから。他人のかかどをつかむという行為には、「押しのける者」という意味もあるが、出産時の命名としては単に「かかどをつかんでいた」という事実を表現しただけで、良くも悪くもない中立的な命名である。→ ヤコブに対して「押しのける者」だと悪い意味をあてたのは、エサウが怒っての発言 (創 27 : 36)。

(2) エサウとヤコブの成長 (創 25 : 27)

この子どもたちは成長した。エサウは巧みな狩人、野の人であったが、ヤコブは穏やかな人で、天幕に住んでいた。 (創 25 : 27)

- ① エサウは「巧みな狩人」となった。創世記では、ニムロデという人物にも同様のことばが使われている。狡猾で自分の力を誇り、神を神とも思わない人という意味を含む。
- また、エサウは「野の人」であった。家業である牧畜には従事しなかったということ。
- ここから見えてくるエサウの人物像は、狡猾な人物。そして、家族やアブラハム契約を大切にする気持ちはなく、長子でありながら、家族の輪から外に出ている。
- ② 他方、ヤコブは「穏やかな人で」とある。「穏やかな」と訳されているヘブル語は、「タム」。その意味は、「完全な、いつも背筋が伸びた、まっすぐに立った、完成した、非の打ち所がない」 ヤコブは「全き人で」と評されている。
- 創世記のほかの人物では、ノアもそのように評された (創 6 : 9、「全き人」、タミーム=完全な、タムと同じく、タマム (完成する) を語源とする)。
 - ヨブ記のヨブ：アブラハムと同時代の信仰の人であるが、この人もそのように評された。(ヨブ 1 : 8「潔白でタム」、参照 エゼキエル 14 : 14)
 - 詩 18 : 25「あなたは 恵み深い者には恵み深く、全き者には全き方」とある。神は「恵み深く全き方」、完全なお方である。他方、人間の「全き者」とは、全く罪を犯さない人という意味ではない。その人の心が神の方をきちんと向いているかどうか、である。ノアも、ヨブもそのような全き人
- また、ヤコブは「天幕に住んでいた」。一族の輪の中であって、家業である牧畜に従事した。祖父アブラハム、父イサクと同じ仕事をした。羊飼いの仕事は、弱虫いくじなしの仕事ではない (創 31 : 38~40、Iサム 17 : 34~35)。

(3) 両親と双子の関係 (創 25 : 28)

イサクはエサウを愛していた。獵の獲物を好んでいたからである。しかし、リベカはヤコブを愛していた。 (創 25 : 28)

双子誕生のときの神のことばに対して、父親イサクの態度は方向性が違います。今回は、成長した双子の兄弟間で起きたある事件と、イサクが年老いたときに兄エサウを選ぼうとして神の介入を受けた出来事を見ます。